

## 第3節 評価について

この節では、国立教育政策研究所の『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』を参考に、球技：ゴール型（サッカー）の評価規準の作成から評価の判断例までを示している。上記の国政研の資料には、学習評価の基本的な考え方や詳しい解説についても記載されている。資料に関しては国政研のホームページ又は、以下の二次元コードを読み取ることで閲覧が可能であるので、ぜひそちらも活用願いたい。



### 1 各単元の評価について

#### (1)「知識・技能」の評価について

「知識・技能」の評価は、学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行うとともに、それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについても評価するものである。

具体的な評価の方法としては、ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図るとともに、例えば、生徒が文章による説明をするなどの、実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れていくことが考えられる。

#### (2)「思考・判断・表現」の評価について

「思考・判断・表現」の評価は、知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかを評価するものである。

具体的な評価の方法としては、ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなど評価方法を工夫することが考えられる。

#### (3)「主体的に学習に取り組む態度」の評価について

「学びに向かう力、人間性等」には①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取ることのできる部分と、②観点別学習状況の評価や評定になじまず、こうした評価では示しきれないことから個人内評価を通じて見取る部分があることに留意する必要があるとされている。すなわち、②については観点別学習状況の評価の対象外とする必要がある。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価に際しては、単に継続的な行動や積極的な発言を行うなど、性格や行動面の傾向を評価するというのではなく、「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価することが重要である。

- 本観点に基づく評価は、「主体的に学習に取り組む態度」に係る評価の観点の趣旨に照らして、
- ① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面
  - ② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面
- という二つの側面を評価することが求められる。

ここでの評価は、生徒の学習の調整が「適切に行われているか」を必ずしも判断するものではなく、学習の調整が知識及び技能の習得などに結び付いていない場合には、教師が学習の進め方を適切に指導することが求められる。

具体的な評価の方法としては、ノートやレポート等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や生徒による自己評価や相互評価等の状況を、教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることなどが考えられる。

\*保健体育科の運動に関する領域においては、公正や協力などを、育成する「態度」として学習指導要領に位置付けており、目標や内容に対応した学習評価が行われることとされている。

## 2 年間計画作成、評価規準の作成から指導と評価計画作成まで

\*ここでの例は『E 球技 ア：ゴール型（サッカー）[第1学年]』とする。

- (1) 年間指導計画に各単元を位置付ける。
- (2) 年間を見通して、指導事項をバランスよく配置する。【1, 2年のみ。3年は1年間で配置】
- (3) 中学校保健体育科における「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。
- (4) (3)を受けて「全ての単元の評価規準」を設定する。
- (5) 当該単元における「単元の評価規準」を設定する。
- (6) 当該単元における具体的な指導の明確化を図る。
- (7) 指導と評価の計画を作成する。

<p>ここで示す「内容のまとめり」 ⇒ 球技【第1学年及び第2学年、第3学年】</p> <p>ここで示す「全ての単元」 ⇒ 球技【ゴール型、ネット型、ベースボール型】</p> <p>ここで示す「単元」 ⇒ 球技【ゴール型 サッカー 第1学年】</p>
---

### (1) 年間指導計画に各単元を位置付ける。

月	4月			5月				6月				7月			9月				10月				11月				12月		1月			2月			3月	
週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	
第1学年	1	体づくり(5)	体育理論(3)	保健(7)								体づくり(5)	保健(9)								①球技：ゴール型(10)		球技：ネット型(8)			ダンス(9)										
	2			器械運動(9)				陸上競技一(8)				水泳(7)							球技：ベースボール型(9)		武道(9)				陸上競技二(7)											
	3																																			
第2学年	1	体育理論(3)	保健(7)								体づくり(5)			保健(9)								②球技：ゴール型(10)		球技：ネット型(8)			ダンス(9)									
	2	体づくり(4)	器械運動(9)				陸上競技一(8)				水泳(8)							球技：ベースボール型(9)		武道(8)				陸上競技二(8)												
	3																																			
第3学年	1	体育理論(3)	保健(7)								体づくり(5)			保健(9)								球技：ネット型(9)☆		選択Ⅱ一(17)☆			選択Ⅱ二(18)☆									
	2	体づくり(4)	選択Ⅱ一(17) (球技：ベースボール型、武道)☆				水泳(8)								選択Ⅰ(26) (器械運動、陸上競技、ダンスから2種目選択)																					
	3																																			



### (3) 中学校保健体育科における「内容のまとめりごとの評価規準」作成の手順

手順1 各教科における「内容のまとめり」と「評価の観点」との関係を確認する。

手順2 観点ごとのポイントを踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する。

太枠内は第1学年及び第2学年の目標及び内容 【学習指導要領解説保健体育編P121～P129参照】

\* (1) は知識及び技能, (2) 思考力, 判断力, 表現力等, (3) 学びに向かう力, 人間性等を内容として示している。

球技について, 次の事項を身に付けることができるよう指導する。

(1) 次の運動について, 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい, 球技の特性や成り立ち, 技術の名称や行い方, その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに, 基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開すること。

ア ゴール型では, ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすること。

イ ネット型では, ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防をすること。

ウ ベースボール型では, 基本的なバット操作と走塁での攻撃, ボール操作と定位置での守備などによって攻防をすること。

2) 攻防などの自己の課題を発見し, 合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに, 自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。

3) 球技に積極的に取り組むとともに, フェアなプレイを守ろうとすること, 作戦などについての話合いに参加しようとする, 一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする, 仲間の学習を援助しようとするなどや, 健康・安全に気を配ること。

内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
内容のまとめりごとの評価規準例	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知識 <ul style="list-style-type: none"> <li>球技の特性や成り立ち, 技術の名称や行い方, その運動に関連して高まる体力などについて<u>理解している。</u></li> </ul> </li> <li>○技能 <ul style="list-style-type: none"> <li>ゴール型では, ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を<u>することができる。</u></li> <li>ネット型では, ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによって空いた場所をめぐる攻防を<u>することができる。</u></li> <li>ベースボール型では, 基本的なバット操作と走塁での攻撃, ボール操作と定位置での守備などによって攻防を<u>することができる。</u></li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>攻防などの自己の<u>課題を発見し,</u>合理的な解決に向けて運動の取り組み方を<u>工夫するとともに,</u>自己や仲間の考えたことを<u>他者に伝えている。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>球技に積極的に取り組むとともに, フェアなプレイを守ろうとすること, 作戦などについての話合いに参加しようとする, 一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする, 仲間の学習を援助しようとするなどをしたり, <u>健康・安全に気を配ったりしている。</u></li> </ul>
文末	<ul style="list-style-type: none"> <li>*知識 <ul style="list-style-type: none"> <li>～について理解している。</li> </ul> </li> <li>*技能 <ul style="list-style-type: none"> <li>～できる。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>～課題を発見し, ～工夫するとともに, ～を他者に伝えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>*健康・安全 <ul style="list-style-type: none"> <li>～している。</li> </ul> </li> <li>*健康・安全以外 <ul style="list-style-type: none"> <li>～しようとしている。</li> </ul> </li> </ul>

(4) (3)を受けて全ての「単元の評価規準」を設定する。

学習指導要領解説に記載してある「例示」の文末を変えるなどして一度、全ての「単元の評価規準」として作成する。

例示内容【学習指導要領解説保健体育編P121～P129参照】

第1学年及び第2学年の例示内容 *学習指導要領中に【例示】とある。	
知識及び運動	<p>○知識</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・球技には集団対集団，個人対個人で攻防を展開し，勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があること。</li> <li>・～こと。</li> <li>・～こと。</li> <li>・～こと。</li> <li>・～こと。</li> <li>・～こと。</li> </ul> <p>○技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをする<u>こと</u>。</li> <li>・～<u>こと</u>。</li> <li>・～<u>こと</u>。</li> <li>・～<u>こと</u>。</li> <li>・～<u>こと</u>。</li> <li>・～<u>こと</u>。</li> </ul>
思考力，判断力，表現力等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に，仲間の課題や出来映えを<u>伝える</u>こと。</li> <li>・～<u>こと</u>。</li> <li>・～<u>こと</u>。</li> <li>・～<u>こと</u>。</li> <li>・～<u>こと</u>。</li> <li>・～<u>こと</u>。</li> <li>・～<u>こと</u>。</li> </ul>
学びに向かう力，人間性等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・球技の学習に<u>積極的</u>に取り組もうとすること。</li> <li>・～<u>こと</u>。</li> <li>・～<u>こと</u>。</li> <li>・～<u>こと</u>。</li> <li>・～<u>こと</u>。</li> <li>・～<u>こと</u>。</li> </ul>

・評価規準とする際は  
文末を『～について，言ったり書き出したりしている』『～について，学習した具体例を挙げている』等に変更する。

・評価規準とする際は，  
「～こと」の後ろに『ができる』を付け加える。

・評価規準とする際は，  
文末を『伝えている』『選んでいる』『見付けている』等，『～している』に変更する。

・評価規準とする際は，  
文末を『取り組もうとしている』『守ろうとしている』『参加しようとしている』『留意している』等に変更する。

(5) 当該単元における「単元の評価規準」を設定する。【(4)から選択する】

○○中学校における第1学年「球技」(ゴール型)の「単元の評価規準」

知識・運動	<p>○知識</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①球技には，集団対集団，個人対個人で攻防を展開し，勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性がある<u>ことについて</u>，言ったり書き出したりしている。</li> <li>②～<u>について</u>，言ったり書き出したりしている。</li> </ol> <p>○技能</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをする<u>ことができる</u>。</li> <li>②～<u>ができる</u>。</li> <li>③～<u>ができる</u>。</li> </ol>
思考・判断・表現	<ol style="list-style-type: none"> <li>①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に，仲間の課題や出来映えを<u>伝えている</u>。</li> <li>②～<u>している</u>。</li> <li>③～<u>している</u>。</li> </ol>
主体的に学習に取り組む態度	<ol style="list-style-type: none"> <li>①球技の学習に<u>積極的</u>に取り組もうとしている。</li> <li>②健康・安全に<u>留意</u>している。</li> </ol>

**(6) 当該単元における具体的な指導内容の明確化を図る。**

学習指導要領解説の記載等から、生徒の学習状況を実現するための具体的な指導内容を明確にする。【ここでは都合上、以降は省略しているが本来はすべて作成する。】

知識及び技能		思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
知識	技能		
<p>ゴール型球技は、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートを放ち、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うことが楽しい運動であること。</p> <p>↓</p> <p>①球技には集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。</p>	<p>ゴール方向に守備者がいない位置に移動した時にシュートを打つこと。</p> <p>↓</p> <p>①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートができる。</p> <p>フリーの仲間を見付け、相手の動きに合わせてパスを送り出すこと。</p> <p>↓</p> <p>②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。</p>	<p>成功例、つまずき例などの事例や、シュート、パス、キープのポイントを示し、仲間の動きと比較し、伝えること。</p> <p>↓</p> <p>①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えている。</p>	<p>発達の段階や学習の段階に適した課題を設定したり、練習の進め方や場づくりの方法を選んだりする学習に積極的に取り組むこと。</p> <p>↓</p> <p>①球技の学習に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>体調の変化などに～ (以下省略)</p> <p>↓</p> <p>②健康・安全に留意している</p>
以下省略			

**(7) 指導と評価の計画を作成する。【矢印は技①と思・判・表①の指導内容間の連携例】**

単元の目標	知識及び技能										* 学習指導要領に記載されている内容。	
	思考力, 判断力, 表現力等										* 学習指導要領に記載されている内容。	
											* 学習指導要領に記載されている内容。	
時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	授業づくりのポイント	
学習の流れ	0	健康観察・本時のねらい確認・準備運動										* 授業づくりのポイントを記入する。
	10	オリエンテーション	ボール操作		空間に走り込むなどの動き等		ボール操作の反復練習				最終ゲーム	
	20						課題解決の確認と解決の練習		修正ゲーム			
	30	ゲームの試み	シュートゲーム		グリッド突破ゲーム		簡易ゲーム I				まとめ	
	40											
50	整理運動・学習の振り返り・次時の確認											
評価機会	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	評価方法	
	知	①	(②)	(②)		②					総括的な評価	
	技			①		②	③					
	思						②	①		③		
態		②		①						学習カード、観察、観察、学習カード		
規 準	知	* 『(5) 当該単元における「単元の評価規準」を設定する。』で作成した内容										
	技	* 『(5) 当該単元における「単元の評価規準」を設定する。』で作成した内容										
	思	* 『(5) 当該単元における「単元の評価規準」を設定する。』で作成した内容										
	態	* 『(5) 当該単元における「単元の評価規準」を設定する。』で作成した内容										

\* 2時間目に技術的なポイント（知識）の学習機会を設け、練習場面を2時間目に設定した上で、3時間目に「技①」の評価を行う。さらに発見した課題について7時間目に課題解決の時間を設け、知識や技能を活用して「思・判・表」の学習や評価につなげる工夫をしている。

### 3 観点別学習状況の評価の判断例

\*ここでの例示は2の『(6) 当該単元における具体的な指導内容の明確化を図る。』の各観点の評価規準を例として説明する。

#### (1) 知識・技能

##### ○知識の評価

知識①球技には集団対集団、個人対個人で攻防を展開し、勝敗を競う楽しさや喜びを味わえる特性があることについて、言ったり書き出したりしている。

実現状況	判断の目安	具体例（生徒の回答例）
十分満足 (A)	本単元の進行に伴って、球技の特性が具体的に加筆されている。	・ 駆け引きの中で選択肢をいくつかもっていると有利で、相手の考えの裏をついたときに楽しいと思った。
おおむね満足 (B)	教員が伝えた球技の特性が記述されている。	・ 相手との駆け引きに勝ってゴールを決めるのが楽しかった。
努力を要する (C)	球技の特性に関する記述がない。	・ 楽しかった。

\*知識②, ③も設定してあれば、同じように目安や具体例を作成する。

##### ○技能の評価

技能①ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすることができる。

実現状況	判断の目安	具体例（特徴的な動き）
十分満足 (A)	守備者がいない場所を見付け、その場所にタイミングよく走り込んでシュートを打つことができる。	・ 守備者がいない場所に適切なタイミングで入り込み、シュートを打つことができている。
おおむね満足 (B)	守備者がいない場所を見付け、その場所でシュートを打つことができる。	・ 守備者がいない場所を見付けて移動し、シュートを打つことができている。
努力を要する (C)	守備者がいない場所を見付けることができない。	・ 移動すべき場所がわからない。

\*技能②, ③も設定してあれば、同じように目安や具体例を作成する。

##### ○「知識・技能」の評価の総括の例

###### ① A・B・Cの組合せに基づいて総括する例

\*取り決め①知識と技能を分けて算出する。その際、「数の多い方の評価とする」

取り決め②知識と技能を総括する際、知識A・技能AならA、知識B・技能BならBとする。ABやBAとなる場合、知識と技能の全ての評価の数を比べて多い評価とする。

単元名	体づくり運動		陸上競技		球技（ゴール型）		総括（平均値）の例	
時間数	4		10		10			
項目	評価	規準数	評価	規準数	評価	規準数		
生徒X	知	B B	2	A A	2	A A	2	A
	技			B B A A	4	B A B	3	B

手順1 知識と技能それぞれの評価を出す。

知識 B, B, A, A, A, A (Aが4つ, Bが2つ) ⇒A

技能 B, B, A, A, B, A, B (Aが3つ, Bが4つ) ⇒B

手順2 手順1の結果、知識がA、技能がBとなった。取り決め②によって知識と技能の全ての評価の数を比べて多い評価とする。



知識 B, B, A, A, A, A (Aが4つ, Bが2つ)  
 技能 B, B, A, A, B, A, B (Aが3つ, Bが4つ)  
 ⇒合計 Aが7, Bが6のため, 評価はAとなる。

② A, B, Cを数値に表したものに基づいて総括する例

\*取り決め① A=3 B=2 C=1とする

取り決め② 総括の基準  $A > 2.50$   $2.50 \geq B \geq 1.50$   $1.50 > C$

単元名		体づくり運動		陸上競技		球技(ゴール型)		総括(平均値)の例	
時間数		4		10		10			
項目		評価	規準数	評価	規準数	評価	規準数		
生徒X	知	B⇒2 B⇒2	2	A⇒3 A⇒3	2	A⇒3 A⇒3	2	A (2.67)	A (2.54)
	技			B⇒2 B⇒2 A⇒3 A⇒3	4	B⇒2 A⇒3 B⇒2	3	B (2.43)	

手順1 知識と技能それぞれの評価を数値化し, 平均を出す。

知識 B, B, A, A, A, A =  $16 \div 6 \Rightarrow 2.67$

技能 B, B, A, A, B, A, B =  $17 \div 7 \Rightarrow 2.43$

手順2 知識と技能を総括する。

知識(16) + 技能(17) ÷ 評価数(13) = 2.54

取り決め②により 2.54 ⇒ A

## (2) 思考・判断・表現

思考・判断・表現①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に, 仲間の課題や出来映えを伝えている。

実現状況	判断の目安	具体例(記述や発言の内容)
十分満足 (A)	提示された動きのポイントやつまずきの事例のみならず, 自分なりの考えや, 実際の活動で感じたことも参考にし, 仲間の課題や出来映えを伝えている。	単元の進行とともにBの内容に加筆されたり, 教員の提示したポイントなどにも気づいた記述や発言があったりしている。
おおむね満足 (B)	提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に, 仲間の課題や出来映えを伝えている。	提示されたポイント等の発言や記述がある。
努力を要する (C)	提示された動きのポイントやつまずきの事例についての記述, 及び発言がない。	提示されたポイント等の発言や記述がない。

\*思考・判断・表現②, ③も設定してあれば, 同じように目安や具体例を作成する。



### (3) 主体的に学習に取り組む態度（太枠内は今回の事例で採用した当該単元の指導内容）

主体的に学習に取り組む態度①球技の学習に積極的に取り組もうとしている。

実現状況	判断の目安	具体例（想定される姿）
十分満足 (A)	<ul style="list-style-type: none"> <li>自身の技能課題と発達, 学習の段階を踏まえた課題を設定している。</li> <li>練習の進め方や場づくりの方法を選ぶ学習などで自身の課題に即した練習方法を選択し, 積極的に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題設定や練習の進め方, 場づくりを選択できる学習の際, ボール操作や, 空間に走り込む動きなど学習の段階や自身の技能の足りない点などを踏まえて積極的に活動している。</li> </ul>
おおむね満足 (B)	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達, 学習の段階に適した課題を設定している。</li> <li>練習の進め方や場づくりの方法を選ぶ学習などに積極的に取り組んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題設定や練習の進め方, 場づくりを選択できる学習の際, ボール操作や, 空間に走り込む動きなど学習の段階を踏まえて活動している。</li> </ul>
努力を要する (C)	<ul style="list-style-type: none"> <li>発達, 学習の段階に適した課題を設定できない。</li> <li>練習の進め方や場づくりの方法を選ぶ学習などに積極的に取り組むことができない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題設定や練習の進め方, 場づくりを選択できる学習で学習の段階などではなく, 「友人関係」や「楽な練習であるか」で選んで活動している。</li> </ul>

\*主体的に学習に取り組む態度②, ③も設定してあれば, 同じように目安や具体例を作成する。

第1学年及び第2学年球技「学びに向かう力, 人間性等」のキーワードと想定される姿の例

	球技の第1学年及び第2学年で示されている例示	○キーワード ◆想定される姿
愛好的態度	球技の学習に積極的に取り組もうとすること	○自主的, 課題に応じた, 繰り返し粘り強く取り組む ◆単元全体を通じた自主的な姿
公正	マナーを守ったり, 相手の健闘を認めたりして, フェアなプレイを守ろうとすること	○尊重し合う, ルール, マナー, フェアプレイ ◆安全性, 公平性が確保されたなかで互いを尊重し合った上での勝敗を争う姿
参画	作戦などについての話合いに参加しようとする事	○グループの話合い, 感情に配慮する, 発言に同意する ◆グループの話合いで, 配慮する, 同意するなどの合意形成に取り組む姿
共生	一人一人の違いに応じた課題や挑戦及び修正などを認めようとする事	○自己の状況にあった実現可能な課題設定や挑戦を大切にす る, 違いに応じた配慮をする ◆自他の関わりの中で, 違いを受け入れている姿
協力	練習の補助をしたり仲間に助言したりして, 仲間の学習を援助しようとする事	○伝え合う, 教え合う ◆他者との関わりの中で, 伝える, 教えるなどの互恵的に関わり合う姿
健康安全	健康・安全に留意すること	○健康を維持する, 安全を保持する ◆自身や仲間の体調や行動, 環境の変化, 用具の安全など健康・安全確保の状況